

2020年シーズン開幕前 特別対談



昨年8月、鹿島アントラーズの新社長に、小泉文明株式会社メルカリ取締役社長兼COO（当時※現在は取締役会長）が就任しました。

本市にゆかりがあり、子どもの頃からよく本市を訪れていた小泉社長に、今シーズンの抱負や本市への思いについて、鈴木市長が伺いました。

【対談日】令和2年1月8日

【場 所】鹿島アントラーズクラブハウス

鈴木周也市長（以下、鈴木） 本日はよろしくお願ひいたします。
小泉文明社長（以下、小泉） よろしくお願ひいたします。

2019年シーズンを振り返って

鈴木 昨シーズンを振り返って、社長としてどのように評価されていますか。

小泉 昨年は46万人の方が、カシマスタジアムに足を運んでくれました。成績はJリーグが3位、ルヴァンカップベスト4、天皇杯準優勝、そしてACLはベスト8という結果になり、もう一步のところでタイトルを逃してしまい、ファンや地域の方々に対して、非常に申し訳ない気持ちです。

鈴木 昨年の夏は、選手の移籍が大変激しかったですね。

小泉 そうですね。そこを新たな選手の獲得や、選手のやりくりで最後まで上位を保てたことはアントラーズの強さだと思います。しかし、アントラーズには全てに勝つ、4冠とらなければいけないというフィロソフィがあります。今年も全てに勝つということを目標にします。

鹿島アントラーズとホームタウンのあり方について

鈴木 社長にとって、ホームタウンが目指すべきものというものは何でしょうか。

小泉 そこに住む人たちの生活に、いかに潤いを与えるかだと思います。行政と

クラブが手を取りながら2人3脚で、アントラーズというブランドを生かしつつ、インターネットや新しいテクノロジーを駆使して、地元の産業の後押し、子どもたちの教育に寄与し、スポーツを通じて生活の楽しさを伝えていくことが大事かと思ひます。

鈴木 そういった意味では、地域にプロサッカーチームがあることで、地域に誇りを持てることは子どもたちにとって大変良いことだと思います。また、子どもだけでなくおじいちゃんおばあちゃんも見に来るスタジアムとして、今まで脈々と続いているのは、アントラーズ愛というものが地域にしっかりと根付いているからだと思います。

小泉 それは大きいと思ひています。最近、高齢者が運転免許を返納したことにより、スタジアムが遠のいたという話を聞きます。例えばクラブが地域の公共交通を行政の方と一緒に整えることで、3世代が一緒に試合を見に行くことができると思ひます。

鈴木 鹿行地域には公共交通の脆弱さがあります。行政としても5市が連携をしながら、公共交通を一緒に整えることで、住み続けられる旗印ができ、地域での生活の基本ができあがると思ひます。そして、いよいよ今年は東京オリンピックが開幕します。

小泉 カシマスタジアムでは11試合が開催されます。日本中、世界中からたくさん

んの人がこの地を訪れます。事前に地域の魅力をきちんとお伝えすることで、サッカーを見るだけでなく、例えば試合前に鹿島神宮参拝や行方市で農業体験をすると、来訪者の滞在時間が長くなります。そこで最高のおもて

こいずみ ふみあき 小泉 文明

1980年山梨県生まれ。
株式会社鹿島アントラーズ・エフ・シー代表取締役社長。父が行方市（旧麻生町）出身。
2003年 大和証券SMBC株式会社（現・大和証券株式会社）入社
2006年 株式会社ミクシ入社
2013年 株式会社メルカリ入社
2014年 同社取締役就任
2017年 同社取締役社長兼COO
2019年 同社取締役会長（現任）



なしをすることによって、この方々が自国や地元に戻ってから、鹿行地域が良かったと宣伝してくれるかもしれません。それが、この地を訪れる人の数の増加につながると思います。

鈴木 そうですね。アントラーズホームタウンDMOと一緒にホームタウンの活動として、鹿行地域が一体的におもてなしの工夫をしていくべきだと思います。

小泉 いろいろなところにさまざまな魅力が点在していますので、地域を楽しむモデルプランをつくるなど、アントラーズホームタウンDMOを中心に、この地域の観光産業に関わる方々が足並みをそろえることが大事だと思っています。

小泉社長の行方市に対する思い

鈴木 社長のご親族が本市出身とのことですが、小泉社長にとっての本市の思い出をお聞かせください。

小泉 Jリーグが開幕したのが1993年で、当時私は中学校1年生でした。小



学校時代はアントラーズが存在せず、まだ北浦大橋もなかったと思います。北浦沿いに父の実家があり、正月などに訪れると、湖やその周辺で遊んでいました。子どもながらに自然が楽しかったですが、それ以外は何もありませんでした。それからJリーグ、スタジアム、北浦大橋ができ、今ではさまざまな開発が行われ、だいぶ風景が変わったという印象です。しかし、そこに住む方々の温かさは全く変わっていません。良いところを残しつつ、それをいかに広く伝えるかが大事だと考えています。

鈴木 時間が止まっているところがありつつ、また新たな時間軸が動いているところもあり。そこを市としてどのように伝えていくか。社長がおっしゃった思い出として残っている印象というものは、これからも大切にしていきたいと思っています。

小泉 湖や夕日を見ると、この景色は何十年も変わっていないのだろうと思います。東京から来た人間の目には、夕日や田園風景がすごく美しく映ります。SNS映えするし、感動するところだと思います。この地域にはそのような感動体験を生む場所がまだまだいろいろなところにあるのではないかと思います。

鈴木 地元に住んでいるとそれが当たり前のことになっていきますが、実はSNS映える宝が地域にはたくさんあります。内部的な感覚ではなく、外部的な印象も取り入れなければならぬと思います。

小泉 この地域の方々にとっては普通のこ

とが、東京の人間からすると新鮮な体験となります。地域を活性化するためには、何かハコモノをつくるよりも、ここでしかできない体験をどのように届けるかを考える方がいいのではないのでしょうか。口コミによって広がる体験ゴトをたくさんつくりたいですね。アントラーズの試合に行く前に農業体験などを楽しむことによって、非日常を行方市もしくは鹿行地域で体験してもらえらる。そういったことに取り組んでいくことが大事なのではないと思います。

鈴木 まさにその通りだと思います。最近では、モノよりコトのコンテンツが重要視されていて、海外のニーズもそちらに広がっていると聞きます。特にこの地域ではコトを体験することが非常にたくさんあると思います。これらをパッケージにしていろいろな人に来てもらったり、関係を持ってもらったりして発信していきたいと思っています。何よりそれを地元の人が理解していることが必要だと思います。

2020年シーズンの抱負

鈴木 2020年のシーズンが始まりますが、今シーズンに向けての抱負をお聞かせください。

小泉 昨シーズンは非常に悔しい思いをしました。私たちは「全ては勝利のために」というミッションを掲げていますし、Jリーグの中で唯一、常勝軍団と名乗って恥ずかしくない成績を収めてきたと思

ます。今回、監督を代え、選手を大幅に入れ替えましたが、ジーコがつくってきたフィロソフィや伝統をしっかり守りつつ、一方で新しいチャレンジをしていきます。そして、サッカーをより魅力的なものにしていきながら、試合に勝ち続け、地域の人に引き続き愛していただけるようなチームを作っていきたいと思っています。まずは勝てる、勝つチームを作ることにもまい進していきたいと思っています。

鈴木 我々も地元アントラーズという素晴らしいサッカーチームがあるということを誇りに思います。そして地域の人々がどんどん応援できる、チームがどんどん強くなってもらうための施策を進めていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

小泉 ありがとうございます。

